

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 国語 科目 現代文B 年間授業計画

教科：（国語）科目：（現代文B） 単位数：B組2単位
対象学年組： 第3学年B組
教科担当者：教科担当者：B組須賀
使用教科書：現代文B（教育出版）
使用教材：パーフェクト常用漢字

	指導内容	科目現代文Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
4 月	文章表現演習	○下記の点に着目しながら、問題を解く。 ・話し言葉と書き言葉の違いを理解する ・評論文の読解の仕方 ・筆者の主張を捉える	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 プリント、テキストの提出	4
5 月	評論①	○難解な評論を的確に読み取る力をつける。さらに、書かれた内容に対する自分の意見を的確に述べる力をつける。 ・主語（主部）・述語（述部）の把握 ・抽象度の高い語句の正確な理解 ・各段落の全体構成における役割	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	8
6 月	評論②	○難解な評論を的確に読み取る力をつける。さらに、書かれた内容に対する自分の意見を的確に述べる力をつける。 ・主語（主部）・述語（述部）の把握 ・抽象度の高い語句の正確な理解 ・各段落の全体構成における役割	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	6
7 月	評論③	○難解な評論を的確に読み取る力をつける。さらに、書かれた内容に対する自分の意見を的確に述べる力をつける。 ・主語（主部）・述語（述部）の把握 ・抽象度の高い語句の正確な理解 ・各段落の全体構成における役割	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	2

	指導内容	科目現代文Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	評論③ 評論④	○難解な評論を的確に読み取る力をつける。さらに、書かれた内容に対する自分の意見を的確に述べる力をつける。 ・対比、二項対立の把握 ・抽象度の高い語句の正確な理解 ・各段落の全体構成における役割	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	4
10月	評論⑤	○難解な評論を的確に読み取る力をつける。さらに、書かれた内容に対する自分の意見を的確に述べる力をつける。 ・対比、二項対立の把握 ・抽象度の高い語句の正確な理解 ・各段落の全体構成における役割	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	6
11月	評論⑥	○現代の事象を取り上げた評論について、筆者の主張と、その根拠となる表現を照らし合わせながら精読させる。 ・指示語 ・接続語 ・論の展開	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	6
12月	小説①	○登場人物の心情を、当時の社会状況を踏まえながら読み解く。	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	2

	指導内容	科目現代文Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	表現	3年間の振り返り	関心・意欲・態度 読む力・聞く力 ワークシート	4
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 科目名 数学ⅡB演習 年間授業計画

教科:(数学)科目:(数学ⅡB演習) 対象:(第 3 学年 AB 組) 2単位

教科担当者:(3A:大井)(3B:西山)

使用教科書:数学Ⅱ Standard(東京書籍) 数学B Standard(東京書籍)

使用教材 :基礎からの数学Ⅱ+B Express (美教出版)

	指導内容 【年間授業計画】	科目数学ⅠAの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時間数
4月	複素数と方程式・式と証明	複素数と方程式・式と証明 二項定理・多項定理 分数式 複素数の計算	問題集	4
	複素数と方程式・式と証明	2次方程式と判別式 解と係数の関係 剰余の定理・因数定理 高次方程式 等式の証明	問題集	
5月	図形と方程式	2点間の距離・直線の方程式 2直線の位置関係・交点について 点と直線の距離 円の方程式と直線について	問題集	6
	図形と方程式	軌跡と領域 媒介変数・動点と軌跡	問題集	
	図形と方程式	問題演習	問題集	
		授業なし		
6月		授業なし		6
	1学期中間考査 (授業内実施)	授業内考査 全員30点以上	考査問題	
		授業なし		
	三角関数	弧度法・三角関数の性質とグラフ 加法定理・倍角の公式・合成 応用問題	問題集	
	三角関数	弧度法・三角関数の性質とグラフ 加法定理・倍角の公式・合成 応用問題	問題集	

7月	問題演習	問題演習・考査対策	教科書、問題集	2
	1学期期末考査	1学期期末考査 全員30点以上	問題集	
		授業なし		
9月	指数・対数関数	指数関数の計算・グラフ 指数関数の性質 対数関数のグラフ 指数と対数の混じった方程式・不等式	問題集	6
	微分・積分	微分係数・導関数について 増減表・グラフ 方程式への応用	問題集	
	微分・積分	微分係数・導関数について 増減表・グラフ 方程式への応用	問題集	
		授業なし		
10月	微分・積分	不定積分・定積分の計算 グラフと定積分の対応について 面積の問題	問題集	8
	応用問題	総合演習	問題集	
	応用問題	総合演習	問題集	
	数列	等差数列 等比数列 それらの和 色々な数列	問題集	
	2学期中間考査	2学期中間考査 全員30点以上		
11月 10				6
	数列	群数列・漸化式・数学的帰納法	問題集	
	ベクトル	ベクトルの加法と減法 ベクトルの成分表示 内積・単位ベクトル 外分・内分・重心のベクトル	問題集	
	ベクトル	空間への応用	問題集	

10 12 2月	応用問題	総合演習	問題集	4
	応用問題	総合演習	問題集	
	2学期期末考査	2学期期末考査 全員30点以上	考査問題	
1月	応用問題 単元融合問題	総合演習	問題集	4
	応用問題 単元融合問題	総合演習	問題集	
2月				
3月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 科目名 政治経済 年間授業計画

教科:(公民)科目:(政治経済) 対象:(第 3学年 B組:選択) 単位数:2単位

教科担当者:(B組:佐藤岳咨◎)

使用教科書:東京書籍 高等学校 政治・経済

使用教材 :最新図説 政経

	指導内容 【年間授業計画】	科目政治経済の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点	予定時間数
4月	ガイダンス 第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ①国際政治の特質 ②国際社会と国際法	ガイダンス 1年間の学習内容や授業の目的や進め方等を説明 第1章 政治経済 5節 現代の国際政治 ①国際政治の特質 国際社会の成立過程と特徴について理解し、今日の新たな動向について考察する。 ②国際社会と国際法 国際秩序の確立を企図して生まれた国際法の歴史とその特質を明らかにし、その役割を認識させる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	4
5月	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ③国際連合の役割と課題 国際連盟の限界と国際連合の目的・昨日について理解させる。その際、冷戦後の国連の課題や日本の国連とのかかわりについても考えさせる。 ④戦後国際関係の展開と日本 第二次世界大戦後の国際政治の動向について、冷戦期および冷戦後の両方の時期で理解させ、現代の国際政治の動向についても考えさせる。 ⑤核軍拡競争と、反核運動の流れを理解させ、地域紛争や難民問題、テロリズムの拡散など冷戦後の国際政治の課題について考察させる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	8
6月	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ⑥地球環境問題と資源・エネルギー問題 ⑦国際社会における日本の役割 第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 。 ⑥地球環境問題と資源・エネルギー問題 グローバル化の進展にともなう今日の地球環境問題や資源・エネルギー問題について理解させ、持続可能な社会を形成するためにどのような課題があるかを考えさせる。 ⑦国際社会における日本の役割 戦後日本外交の歩みを理解させ、日本外交の課題と平和憲法をもつ日本の果たすべき役割について考えさせる。 第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立 経済活動について理解させ、資本主義経済の成立過程や特徴を考察させる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	6
7月	第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 ②資本主義経済の発展と変容 第2回考查	②資本主義経済の発展と変容 資本主義の変容について社会主義との関係を踏まえながら理解させる。また、1970年代以降の新自由主義の動向についても考察させる。 第2回考查	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況 【知識・理解】 ・第2回考查	2 考查 1
8月				
9月	第2章 現代の経済 2節 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環 ②生産のしくみと企業	第2章 現代の経済 2節 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環 三つの経済主体と経済活動の流れを理解させる。 ②生産のしくみと企業 企業の役割や活動、株式会社の特色について理解させ、企業の社会的責任について考察させる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	4

10月	第2章 現代の経済 2節 現代経済のしくみ ③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能 第3回考査	第2章 現代の経済 2節 現代経済のしくみ ③市場経済の機能と限界 市場における需要と供給のしくみについて理解させ、市場経済の問題点や競争を阻害する要因について考えさせる。 ④国民所得と経済成長 経済活動を把握するための指標について理解させるとともに、景気動向や物価についても考察させる。 ⑤金融のしくみと機能 通貨と金融の役割および中央銀行の金融政策について理解させる。 ⑥財政のしくみと機能 財政の役割および財政政策について理解させ、現在の日本の財政赤字などの問題や税負担の問題について考えさせる。 第3回考査	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況 【知識・理解】 ・第3回考査	6 考査1
11月	第2章 現代の経済 3節 日本経済の発展と産業構造の変化 ①経済再建から高度成長へ ②オイル・ショック後の日本経済 ③日本経済の現状	第2章 現代の経済 3節 日本経済の発展と産業構造の変化 ①経済再建から高度成長へ 戦後経済復興の背景と高度経済成長の要因について理解させる。 ②オイル・ショック後の日本経済 高度経済成長が終焉したのちの産業構造の高度化や日米経済摩擦について理解させ、バブル経済の発生と破綻した理由について考えさせる。 ③日本経済の現状 バブル経済破綻後の経済状況や「構造改革」などの経済政策について考えさせ、東日本大震災後における日本経済が抱える課題について考察させる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	6
12月	第2章 現代の経済 4節 社会福祉と日本経済の課題 ①公害と環境保全 ②消費者問題 第4回考査 ③農業・食糧問題 ④中小企業の現状と課題	第2章 現代の経済 4節 社会福祉と日本経済の課題 ①公害と環境保全 公害の原因と政府の公害対策について理解させ、環境問題や循環型社会形成に向けての課題について考えさせる。 ②消費者問題 消費者保護や自立のための法律や制度、消費者問題の課題を理解させ、契約についても考えさせる。 第4回考査 ③農業・食糧問題 農業の現状を理解させ、今後の農業のあり方について考えさせる。 ④中小企業の現状と課題 日本における中小企業の位置づけ認識させ、大企業との格差や中小企業の課題について考えさせる。	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況 【知識・理解】 ・第4回考査	4 考査1
1月	第2章 現代の経済 4節 社会福祉と日本経済の課題 ⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉 総復習	第2章 現代の経済 4節 社会福祉と日本経済の課題 ⑤雇用と労働問題 労働問題の歴史、労働三権の内容や労働市場の変化などについて理解させ、労働をめぐる環境の変化や現在の雇用問題について考えさせる。 ⑥社会保障と福祉 社会保障の意義やしくみ、少子高齢化が進む日本の現状について理解させ、日本の社会保障制度の課題について考察させる。 総復習 1年間の学習を振り返る	【思考・判断・表現力】 ・発問状況 ・課題内容 【関心・意欲・態度】 ・授業態度 ・課題提出状況	2
2月				
3月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 国語 科目 国語表現 年間授業計画

教科：（国語）科目：（国語表現） 単位数：2単位
対象学年組： 第3学年A組、B組
教科担当者：竹内 田鹿
使用教科書:国語表現 改訂版（大修館書店）
使用教材:ステップアップ小論文

	指導内容	科目国語表現の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	文章表現の基本 小論文①	○正しい文章表現の仕方を身に着ける。 ○書き言葉としての適切な表現や、読みやすい文章構成について知識を深め、自ら意識して書けるようになる。	授業態度 提出物 発問	2
5月	小論文を書く①	○課題文で述べられた内容を正確に把握し、要約する力を身につけさせる。 ○課題文をふまえながら、それに対する自分の主張を論理的に述べる力を身につける。	授業態度 提出物 発問	6
6月	小論文を書く②	○資料にまとめられた諸々の数値を正確に読み取る力を身につける。 ○資料から明らかになった事実に対する自己の主張を論理的に述べる力を身につける。	授業態度 提出物 発問	6
7月	小論文を書く③	○漠然と設定されたテーマに対して、自身でテーマを具体的に絞り、論じる力を身につける。 ○社会的な事実や、それに対する知識をふまえて自己の主張を論理的に述べる力を身につけさせる。	授業態度 提出物 発問	2

	指導内容	科目国語表現の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	小論文を書く③	○漠然と設定されたテーマに対して、自身でテーマを具体的に絞り、論じる力を身につける。 ○社会的な事実や、それに対する知識をふまえて自己の主張を論理的に述べる力を身につけさせる。 ○自身の進路に合わせた小論文を書くことができる	授業態度 提出物 発問	4
10月	小論文を書く④ 討論①	○漠然と設定されたテーマに対して、自身でテーマを具体的に絞り、論じる力を身につける。 ○社会的な事実や、それに対する知識をふまえて自己の主張を論理的に述べる力を身につけさせる。 ○自身の進路に合わせた小論文を書くことができる ○ディベートを通して、話す順序や、他者の意見との相違点を整理しながら自己の主張を述べる力を身につけさせる。 ○他者との意見のやりとりを通して、考えや問題の解決法を探る力を身につけさせる。	授業態度 提出物 発問	6
11月	討論②	○ディベートを通して、話す順序や、他者の意見との相違点を整理しながら自己の主張を述べる力を身につけさせる。 ○他者との意見のやりとりを通して、考えや問題の解決法を探る力を身につけさせる。	授業態度 提出物 発問	6
12月	手紙を書く①	○前文、主文、末文、後付といった手紙を書く際の様式、形式について理解させ、手紙を書く力を身につけさせる。	授業態度 提出物 発問	2

	指導内容	科目国語表現の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	手紙を書く②	○前文、主文、末文、後付といった手紙を書く際の様式、形式について理解させ、手紙を書く力を身につけさせる。	授業態度 提出物 発問	4
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 科目名 数学ⅠA演習 年間授業計画

教科:(数学)科目:(数学ⅠA演習) 対象:(第 3 学年 AB 組) 2単位

教科担当者:(3A:久保)(3B:久保)

使用教科書:数学Ⅰ Standard(東京書籍) 数学A Standard(東京書籍)

使用教材:基礎からの数学Ⅰ+A Express (実教出版)

	指導内容 【年間授業計画】	科目数学ⅠAの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時間数
4月			授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	
	数と式 ・公式による展開 ・因数分解 ・絶対値記号 ・二重根号	数学Ⅰの基本的な展開、因数分解、無理数の計算、対象式などについて学習する		2
5月			授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	
	2次関数 2次関数のグラフ 移動 2次方程式・不等式	数学Ⅰの基本的な関数の扱い、グラフについて学習する		2
	2次関数 2次関数のグラフ 移動 2次方程式・不等式	数学Ⅰの基本的な関数の扱い、グラフについて学習する		2
	1学期中間考査	全員30点以上		1
6月	図形と計量 三角比 方程式・不等式 正弦定理・余弦定理	三角比の基本的な性質や正弦定理など図形に応用する定理を学習する。	授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	2
	図形と計量 三角比 方程式・不等式 正弦定理・余弦定理	三角比の基本的な性質や正弦定理など図形に応用する定理を学習する。		2
	集合と論証	・基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 ・演習を通して解答力を身に付ける。 ・必要条件、十分条件を理解する。		2

7月			授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	
	1学期期末考査	全員30点以上		1
	データの分析	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - 基本的な統計計算が一通りできる。		2
9月	データ分析	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - 基本的な統計計算が一通りできる。	授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	2
	場合の数	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - 各種の公式を使い分ける。 - 組の区別がつかない場合の解法を理解している。		2
	場合の数	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - 各種の公式を使い分ける。 - 組の区別がつかない場合の解法を理解している。		2
10月	整数の性質	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - 不定方程式の解。	授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	2
	図形の性質	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - チェバ、メネラウスの定理の利用。		2
	図形の性質	- 基本事項の確認、受験数学の知識の確認。 - 演習を通して解答力を身に付ける。 - チェバ、メネラウスの定理の利用。		2
	2学期中間考査	全員30点以上		1
11月			授業中の取り組み、宿題 【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	
	数学ⅠA総合演習	ⅠAの総合演習を行う		2
	数学ⅠA総合演習	ⅠAの総合演習を行う		2

1 2 月	総合演習	センター試験を意識した形式でのテストになれる。特に、時間感覚を磨くことを重視する。	プリントの提出【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	2
	2学期期末考査	全員30点以上		1
1 月	総合演習	センター試験を意識した形式でのテストになれる。特に、時間感覚を磨くことを重視する。	授業中の取り組み、宿題【関心・意欲・態度】 定期考査【知識・理解】	2
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 芸術 科目音楽Ⅱ 年間授業計画

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数：2単位
対象学年組：第3学年A組B組選択者
教科担当者：(A組：白鳥) (B組：白鳥)
使用教科書：(高校生の音楽2)

	指導内容	科目音楽Ⅱの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月				
	オリエンテーション	・音楽Ⅱについてのオリエンテーションを行う。主に学習内容と成績・評価の仕方について説明する。	授業態度、意欲	1
5月				
	鑑賞	・歌曲における発声の特徴と、表現上の効果とのかかわりを理解し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深めている	教科書、ワークシート 映像、聴取資料	1
	創作(楽典)	・楽曲の強弱やリズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気などを感受できる	ワークシート	2
	創作(楽典)	・楽曲の強弱やリズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気などを感受できる	教科書、ワークシート	1
6月	鑑賞(民俗芸能)	日本の伝統的な民謡や芸能に親しみを持つ 他国の文化と比較し、理解する	教科書、ワークシート	2
	鑑賞(民俗芸能)	日本の伝統的な民謡や芸能に親しみを持つ 他国の文化と比較し、理解する	教科書、ワークシート	1
	器楽表現(ギター)	・ギターの基礎的な演奏が出来る ・ギターの音色や奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート	2
	器楽表現 (ギター)	・ギターの基礎的な演奏が出来る ・ギターの音色や奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート ギター	2
7月	器楽表現 (ギター)	・ギターの基礎的な演奏が出来る ・ギターの音色や奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート ギター	2
	器楽表現(ボディーパーカッション)	・ボディーパーカッションの基礎的な演奏が出来る ・ボディーパーカッションによる様々な奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート	2

	指導内容	科目音楽Ⅱの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月				
	鑑賞(音楽史)	・ポピュラー音楽に関して表面上を理解する ・ポップスで使用される楽器について考える	教科書、ワークシート	2
	鑑賞(音楽史)	・ポピュラー音楽に関して表面上を理解する ・ポップスで使用される楽器について考える	教科書、ワークシート	2
10月				
	器楽表現(ボイスアンサンブル)	・ボイスアンサンブルの奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート	2
	器楽表現(ギター)	・ギターの基礎的な演奏が出来る ・ギターの音色や奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート ギター	3
	器楽表現(ギター)	・ギターの基礎的な演奏が出来る ・ギターの音色や奏法と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏できる	教科書、ワークシート ギター	3
11月				
	創作表現	・言葉のリズムや抑揚を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫しながら創作をしている	教科書、ワークシート	2
	創作表現	・言葉のリズムや抑揚を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫しながら創作をしている	教科書、ワークシート	2
12月	器楽表現(合奏)	・基礎的な器楽表現ができる ・リズムを感じ、周囲の音との交わりを知る ・楽曲の文化的、歴史的背景について理解を深めている	教科書、ワークシート	2
	器楽表現(合奏)	・基礎的な器楽表現ができる ・リズムを感じ、周囲の音との交わりを知る ・楽曲の文化的、歴史的背景について理解を深めている	教科書、ワークシート	2
1月	器楽表現(合奏)	・基礎的な器楽表現ができる ・リズムを感じ、周囲の音との交わりを知る ・楽曲の文化的、歴史的背景について理解を深めている	教科書、ワークシート	2

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：英語、科目：時事英語 年間授業計画

教科：英語 科目：時事英語 単位数：4単位

対象学年組：第3学年B組選択

教科担当者：木原 弘子 / Daniel Guenge

使用教材：CNN Workbook Exssteded Course / Asashi Weekly 2023 April 発行誌より随時発行誌を使用

	指導内容	科目 時事英語の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	- 既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 - 学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 - 他者の発表を聞き相互に意見を交換できるようにする。	- 課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 - 既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 - 英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	12
5 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動 通常授業	- 既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 - 学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 - 他者の発表を聞き相互に意見を交換できるようにする。	- 課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 - 既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 - 英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	14
6 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	- 既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 - 学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 - 他者の発表を聞き相互に意見を交換できるようにする。	- 課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 - 既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 - 英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	14

	指導内容	科目 時事英語の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	2
8 月				
9 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	12
1 0 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 - 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	14

	指導内容	科目 時事英語の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 1 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	18
1 2 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	4
1 月	通常対面授業 Listening 時事的なテーマでのListening , Comprehention, 英文作成と発表活動	・既習の文法事項を一層深く学ぶとともに、時事的、多面的な内容の英文を聞き取り素早く内容把握することを目指す。演習を通して習熟する。 ・学習した文法事項や英語特有の表現などを活用し、時事的なテーマで自分の考えを表現できるようにする。 ・他者の発表を聞き相互に意見をを交換できるようにする。	・課題提出と発表 【関心・意欲・態度】 ・既習の語彙と文法知識を用いてテーマに対して口頭で発表するとともに明確な英文を作成する力が身についているか 【知識の活用】 ・英語を使って、時事的なテーマについて情報を集め、自己の知識や意見を書いたり話したりすることができるか。 【英語情報の理解と表現】 的確な内容把握を口頭とwriting で表現する力を確認する。	6

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科地歴 科目日本史A 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：日本史A 単位数：2単位
対象学年組：第3学年B組
教科担当者：（池田明容 ㊟）
使用教科書：（日本史A 現代からの歴史 （東京書籍））
使用教材：（地図帳）

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	人類誕生から江戸時代の日本 近代日本の概略 日本地理の復習	・近代日本にいたるまで、日本がどのように成立したかを大まかに理解し、学習内容の前提知識を身に着ける。 ・近代日本の概略について、世界の中での日本の立場や長い歴史の中での立場をふまえつつ認識を深める。 ・日本史を進めていくにあたって必要不可欠な地理学の基礎知識を、小テストや課題などで復習していく。	・提出課題 ・授業態度 ・発問評価 ・考査	6
5月	日本の開国と条約調印 幕末の動乱と大政奉還 王政復古と戊辰戦争 【第一回考査】	・ペリー来航をきっかけとした200年以上続く鎖国体制の崩壊と、以後諸外国と結んだ条約と交易の展開について、条約の中身や外国との軋轢にふれて理解していく。 ・尊王攘夷派と佐幕派、諸外国、朝廷などの関係性や衝突について、それぞれの立場の変化をおさえつつ理解していく。 ・倒幕運動に対する幕府の対応、新政府樹立を目指す薩長中心の倒幕派の動きをおさえ、両者が衝突する戊辰戦争の展開を理解していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	8
6月	新政府の成立と組織 明治維新と文明開化 殖産興業の促進 国境の画定 反政府運動と民権運動 国会の開設と憲法の制定	・明治新政府の初期の組織の変遷をおさえしていく。 ・新政府が実行した様々な制度改革や西洋文化の奨励策を、それに対する民衆の反応を通じて理解していく。 ・新政府が行った産業奨励政策とそれにより発展した産業のようすを理解していく。 ・新政府になってからの国境線の確定とそのための周辺国との交渉のようすを通じて、近代国家としての日本が成立していくようすを理解していく。 ・新政府に対する士族や民衆の反乱のようすを、新政府の対応も含めて把握していく。 ・自由民権運動とそれを受けての国会開設、憲法の制定について、流れをおさえつつ理解していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	6
7月	条約改正 【第二回考査】	・幕府が結んだ不平等条約の改正を目指した新政府の奮闘と苦難を、時系列を追って理解していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	3

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月	夏季休業			
9月	日清・日露戦争 帝国主義と韓国併合 日本の産業革命と社会問題 第一次世界大戦と日本	・日本が近代国家として初めて臨む二つの戦争を、そこに至るまでの経緯やその後の展開について理解していく。 ・帝国主義の思想が進む中で朝鮮半島の植民地化をねらう日本の動きを、先の二つの戦争と関連付けて把握していく。 ・戦争を通じて発展を遂げた日本の産業のようすと、同時に発生した複数の社会問題について、両者を結び付けながら理解していく。 ・ヨーロッパを舞台とした第一次世界大戦の裏で、主に対中政策を進めるなど暗躍する日本政府のようすと貿易黒字による産業の発展を理解していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	6
10月	大正デモクラシー 政党政治と協調外交 関東大震災 連続する恐慌 満州進出と国際的な孤立化 【第三回考査】	・識字率の底上げによるマスメディアの発展と、それに付随して大きく盛り上がった大正時代の思想や文化の発展をおさえていく。 ・民衆の支持を得て確立した本格的な政党政治の展開と、大戦後の国際的な協調に合わせた日本の積極外交のようすを把握していく。 ・大規模な震災の発生とそれによる社会統制の強まり、経済的な影響について理解していく。 ・震災の影響や世界規模の不況など、さまざまな事由から連続して発生した恐慌により苦境に立たされる日本のようすをおさえていく。 ・現状打開のために軍部が暴走した満州への侵略行為とそれに対する国際社会の反応について把握する。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	8
11月	軍部の台頭と凶行 日中全面戦争の開始 国家総動員体制の確立 第二次世界大戦と太平洋戦争 大東亜共栄圏の成立 大日本帝国の崩壊と敗戦	・国民の支持を得て台頭していく軍部のようすをおさえつつ、一部の暴走した軍部の凶行とそれに対する政府の対応を見ていく。 ・満州をめぐる衝突する日中両国の全面戦争までの流れを把握していく。 ・来る大戦に向けての国家総動員体制の構築について、人々の生活との関連付けをしつつ見ていく。 ・第二次世界大戦の勃発とその一つである太平洋戦争の開戦について、日本とドイツ、ソ連、アメリカなどの諸外国との関係性や外交を通じて理解していく。 ・戦争続行の為の日本の東南アジア進出とその正当化の為の大東亜共栄圏の確立について、地域ごとにそのようすをおさえていく。 ・ミッドウェー海戦から始まる日本の敗戦からポツダム宣言受諾までの流れを把握する。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	7
12月	大戦後の国際社会と冷戦 戦後日本の占領政策 日本の講和と独立化 【第四回考査】	・戦後の国際社会における対立のようすと、アジアをはじめとする国家や民族の再編のようすを、さまざまな国の立場から多角的に見ていく。 ・敗戦後の日本に対するGHQの占領政策と日本政府の対応について、具体的な法令や国際的な利害関係とも関連付けつつ理解していく。 ・冷戦の影響を受けた日本の独立までの過程と、その裏にある国際関係の両方を結び付けて把握していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	6

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
1 月	55年体制の成立 高度経済成長 現代文化の浸透と社会問題	・55年体制の成立までの保守・改革両派の動きや対立をおさえていく。 ・急速な経済発展を遂げる日本のようすを、国際的な事情など様々な要因と結び付けて理解していく。 ・生活や文化活動における日本の現代化の進行と、経済発展の裏で起こるさまざまな社会問題について把握していく。	・授業態度 ・発問評価 ・考査	3
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 理科 科目 生物 年間授業計画

教科：理科 科目：生物 単位数：4単位
対象学年組：第3学年A組、B組
教科担当者：A組、B組：田中 遼
使用教科書：改訂 生物 [東京書籍]
使用教材：九訂版 スクエア最新図説生物neo [第一学習社]、セミナー生物 [第一学習社]

	指導内容	科目 生物 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	春季休業（終）			12
	1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞	・真核細胞内の細胞小器官の構造とはたらきについて理解させる。 ・生体膜は主にリン脂質とタンパク質から構成されることを理解させる。 ・細胞骨格の構造と機能を理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント 【観察・実験の技能】 ・実験プリント	
	2章 タンパク質の構造と酵素	・タンパク質の立体構造について理解させる。 ・酵素のはたらきに、酵素タンパク質の立体構造が深く関わっていることを理解させる。		
	3章 細胞間の相互作用とタンパク質	・チャネルやポンプなどの膜タンパク質が、生体膜の透過性や物質輸送に関わることを理解させる。 ・タンパク質が物質輸送や細胞間の情報伝達に関わっていることを例を挙げて説明できるようにする。		
	4章 代謝とエネルギー	・呼吸において有機物が分解され、ATPが合成されるまでの各過程を理解させる。 ・アルコール発酵、乳酸発酵でATPが合成される過程を理解させる。		
5月	4章 代謝とエネルギー	・光合成において光エネルギーが化学エネルギーに変換される各過程(光化学系、電子伝達系、カルビン・ベンソン回路)を理解させる。 ・光合成細菌による光合成と化学合成細菌による炭酸同化について理解させる。 ・植物体に無機窒素が吸収されて、アンモニアが有機窒素化合物に取り入れられる過程を理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント ・定期考査記述問題 【観察・実験の技能】 ・実験プリント ・定期考査 【知識・理解】 ・定期考査	11
	5編 生体と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集	・種内競争や社会性を例に、個体群内の相互作用によって個体群密度が一定の範囲に保たれていることを理解させる。 ・捕食と被食、種間競争や相利共生を例に、個体群間の相互作用について説明できるようにする。 ・多様な種が共存する仕組みについて、食物や生息場所の過不足に注目して理解する。		
	3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	・年間生産量と生産者の現存量に注目して、森林・草原・海洋などの生態系の物質生産の特徴を挙げられるようにする。 ・生産者により生態系に取りこまれたエネルギー量が、栄養段階が上がるにつれて減少していくことを理解させる。		
	1学期中間考査			
6月	4章 生態系と生物多様性	・生物の多様性について、種・遺伝子・生態系の3つの視点があることを理解させる。 ・攪乱により生物の多様性が維持されたり、変化したりすることがあることを理解させる。 ・極端な生息地の分断化や個体数の減少などが個体群の絶滅を加速する要因になることを理解させる。 ・外来生物の移入によって絶滅が起こりやすくなることを理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント 【観察・実験の技能】 ・実験プリント	16
	2編 遺伝子のはたらき 1章 DNAの構造と複製	・DNAの複製の仕組み(半保存的複製)について理解させる。 ・DNAの複製におけるDNAポリメラーゼのはたらきと性質について理解させる。		
	2編 遺伝子のはたらき 2章 遺伝情報の発現	・転写、スプライシング及び翻訳の過程を理解させる。 ・塩基配列の変化によって、合成されるタンパク質のアミノ酸配列に変化が起こることを理解させる。 ・塩基配列の変化が種内でのゲノムの多様性につながることを理解させる。		
	3章 遺伝子の発現調節	・遺伝子の発現が調節されていることについて、転写レベルの調節を例に説明できるようにする。 ・遺伝子の発現が調節されることによって、細胞の分化が起こることを理解させる。		
	4章 バイオテクノロジー	・遺伝子組換え技術における制限酵素やベクターの役割について理解させる。 ・PCR法によって目的のDNA断片を増幅するしくみを理解させる。		

	指導内容	科目 生物 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	1学期期末考査		【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント ・定期考査記述問題 【観察・実験の技能】 ・実験プリント ・定期考査 【知識・理解】 ・定期考査	5
	3編 生殖と発生 1章 生物の有性生殖	・減数分裂によって遺伝子が配偶子に分配され、受精が起きる結果、多様な遺伝的組合せが生じることを理解させる。 ・減数分裂の際に染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こること、組換えによって新たな連鎖が起こることを理解させる。		
	夏季休業（始）			
8 月				
	夏季休業（終）			
9 月	3編 生殖と発生 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ	・動物の配偶子形成について、減数分裂を含む一連の過程によって卵や精子ができることを理解させる。 ・受精の過程について、ウニの受精を例に説明できるようにする。 ・カエルの発生を例に、卵割から神経胚までの発生過程を理解させる。 ・ショウジョウバエの発生を例に、胚の前後軸の決定に卵の細胞質における不均一性が関与していることを理解させる。 ・細胞の分化と形態形成における形成体のかかわりについて、両生類を用いた実験を例に理解させる。 ・誘導の連鎖について、両生類の胚の眼の形成を例に理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント ・小テスト 【観察・実験の技能】 ・実験プリント 【知識・理解】 ・小テスト	10
	4章 植物の発生	・被子植物における精細胞と卵細胞の形成過程と重複受精による胚と胚乳の形成について理解させる。 ・ABCモデルを例に、花の形態形成における遺伝子の働きについて理解させる。		
1 0 月	4編 生物の環境適応 1章 動物の刺激の受容と反応	・神経に興奮が発生して伝えられる仕組みを理解させる。 ・眼や耳の感覚細胞が刺激を受容する仕組みを理解させる。 ・筋肉の筋原繊維が収縮する仕組みを理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント ・定期考査記述問題 【観察・実験の技能】 ・実験プリント ・定期考査 【知識・理解】 ・定期考査	15
	2章 動物の行動	・刺激に対する反応としての動物個体の行動を神経系における情報の流れを関連付けて説明できるようにする。		
	2学期中間考査			
1 1 月	4編 生物の環境適応 3章 植物の環境応答	・植物が植物ホルモンや光受容体の働きで環境変化に反応する仕組みを、発芽調節や花芽形成などを例に説明できるようにする。	【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント 【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント 【観察・実験の技能】 ・実験プリント	16
	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷	・生命の誕生とその後の生物進化を環境条件の変化と関連付けて理解させる。		
	2章 進化の仕組み	・生物進化が突然変異、自然選択、遺伝的浮動などによって起こることを理解させる。		

	指導内容	科目 生物 の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 2 月			【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント	9
	2学期期末考査		【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント ・定期考査記述問題	
	6編 生物の進化と系統 3章 生物の系統	・DNAの塩基配列などを比較することによって系統関係が調べられることを理解させる。	【観察・実験の技能】 ・実験プリント ・定期考査 【知識・理解】 ・定期考査	
	冬季休業（始）			
1 月	冬季休業（終）		【関心・意欲・態度】 ・授業プリント ・実験プリント	6
	1年間の総復習・問題演習	問題演習等を通じて、「生物」の学習内容を定着させる。	【思考・判断・表現】 ・授業プリント ・実験プリント 【観察・実験の技能】 ・実験プリント	
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科理科 科目物理 年間授業計画

教科：理科 科目：物理 単位数： 4 単位
対象学年組： 第 3 学年A組～B組）
教科担当者：（A組： 松柴直樹 ）（B組： 松柴直樹 ）
使用教科書：（物理 新訂版（実教出版））
使用教材：（実践アクセス総合物理（浜島書店） フォトサイエンス物理図録（数研出版））

	指導内容	科目物理の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	1章 様々な運動 1節 平面内の運動と剛体のつり合い ①運動の表し方 ②落体の運動	2次元平面上で、速度、加速度のベクトルを用いた表し方を理解させ、速度の合成、分解、相対速度について理解させる。 平面上での運動をベクトル表示、成分表示の双方から理解させる。 水平投射、斜方投射について水平方向と鉛直方向とで分けて等速直線運動と等加速度直線運動の式が立てれる。	課題学習 【知識・理解】 授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】	8
5月	1章 様々な運動 1節 平面内の運動と剛体のつり合い ③剛体にはたらく力 2 節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量の保存 ③衝突とエネルギー 1学期中間考査	剛体と質点の違いを理解し、剛体には並進運動のほかに回転運動がはたらく可能性があることを説明できる。 力のモーメントを理解させる。 剛体の静止条件を説明できる。 平行な2力の合成から、重心について理解させる。 剛体の転倒、安定を理解させる。 運動量と力積の関係を理解させる。 保存量という観点から運動量をとらえさせ、運動量保存の法則を理解させる。 運動量保存と力学的エネルギー保存の違いが説明できる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 1学期中間考査 【知識・理解】	13
6月	1章 さまざまな運動 3節 円運動と単振動 ①等速円運動 ②慣性力 ③単振動 4節 万有引力 ①ケプラーの法則 ②万有引力 ③万有引力による位置エネルギー	慣性力の考え方を理解させる。 等速円運動の速度、角速度、向心加速度、向心力や遠心力について理解させる。 単振動と円運動の関係を通して、単振動の周期、変位、速度、加速度を理解させる。 ケプラーの法則を理解させる。 ケプラーの法則から万有引力の法則を導く過程を理解させる。 万有引力を受ける物体の運動を理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】	14
7月	3章 電気と磁気 1節 電荷と電場 ①静電気 ②電場 ③電位と電位差 ④電場中の導体 ⑤コンデンサー 2節 電流 ①電気回路 ②直流回路 1学期期末考査	摩擦電気を通して、帯電の仕組み、電気量の保存を理解させる。 電場と電位差の関係を理解させる。 平行版コンデンサーを具体例として取り扱い、静電気現象の理解を深める。 コンデンサーの合成容量が理解でき、並列接続・直列接続の合成容量が求められる。 直流回路の性質を理解させ、様々な直流回路に共通する概念を理解させる。 回路方程式を一般化として示し、あらゆる状況で立式ができる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 1学期期末考査 【知識・理解】	9

	指導内容	科目物理の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	3章 電気と磁気 ①磁場 ②電流のつくる磁場 ③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力 4節 電磁誘導と電磁波 ①電磁誘導の法則 ②自己誘導と相互誘導 ③交流	電流が磁場から受ける力の性質を理解させ、運動する荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力がより基本的なものであることを理解させる。 電流のつくる磁場の性質を理解させる。 電磁誘導の法則を理解させる。 ローレンツ力起源の起電力を理解させる。 交流回路の基本、特に交流回路におけるコイルとコンデンサーの役割を理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】	12
10月	3章 電気と磁気 4節 電磁誘導と電磁波 ④電気振動と共振 ⑤電磁波 2章 波 1節 波の伝わり方 ①波の表し方 ②波の干渉 ③波の伝わり方 2節 音 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 2学期中間考査	電磁波の放射の仕組みを定性的に理解させ、電波の性質を理解させる。 LCを含む回路における電気振動と固有周波数を理解させる。 回路の抵抗が0ならば、コンデンサーの電場のエネルギーとコイルの磁場のエネルギーの和は保存することを理解させる。 力学や波動における共振と同様、電気回路でも共振が起こることを理解させる。 単振動と円運動から正弦波の式が導き出せることを理解させる。 波特有の現象である干渉は、重ね合わせの原理から説明できることを理解させる。 ホイヘンズの原理から波の回折、屈折、反射を理解させる。 音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解させる。 ドップラー効果を波の伝わり方から理解させる。 観測者が運動する場合や音源、観測者がともに運動する場合のドップラー効果を説明できる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 2学期中間考査 【知識・理解】	15
11月	2章 波 3節 光 ①光の伝わり方 ②光の分散・散乱・偏光 ③レンズと球面鏡 ④光の回折と干渉	光の速さが媒質によって変化するために、屈折が起こることを理解させる。 光は横波であること、色は波長の違いによるものであることが説明できる。 夕日と晴天の空の色が違う理由が説明できる。 レンズと球面鏡の特徴から、屈折と反射の理解を深めさせる。 光の回折や干渉など、光が波であることを示す典型的な現象をヤングの実験から理解させる。 くさび型空気層による干渉やニュートンリングについて理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】	16
12月	1章 さまざまな運動 5節 気体分子の運動 ①気体の状態方程式 ②気体分子の運動 ③気体の内部エネルギー ④気体の状態変化 4章 原子 1節 原子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③電子の波動性 2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核 ③原子核反応 ④素粒子 2学期期末考査	気体の圧力は、気体分子の運動によって生じることを理解させる。 ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則、理想気体状態方程式を理解させる。 気体の内部エネルギー、気体の仕事について理解させる。 気体の状態変化に対して、熱力学第1法則が適用できることを理解させる。 気体の定積比熱と定圧比熱について理解させる。 熱力学第2法則について理解させる。 光電効果の実験とアインシュタインの光の量子論を理解させる。 光やX線の二重性について理解させる。 原子の構造とボーアの素原子モデルを理解させ、水素原子のスペクトルについて理解させる。 原子核の構成や変化について理解させる。 原子核の構成に伴う放射線の放出について理解させる。 放射線の性質について理解させる。 素粒子の概要について理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 2学期期末考査 【知識・理解】	11

	指導内容	科目物理の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	5章 物理学が拓く未来 ①相対性理論と膨張宇宙 ②シミュレーション化学 ③エネルギー資源の有効利用 ④磁気による情報記録	現代物理学の先端研究や技術革新について理解させる。 エネルギーの利用と未来について理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する回答 【思考・判断・表現】 提出課題 【知識・理解】 【関心・意欲・態度】	8
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 科目名:化学 年間授業計画

教科:(理科)科目:(化学) 対象:(第 3 学年 A 組 ～ B 組) 4単位
教科担当者:(佐藤 義幸 ㊞)
使用教科書:(改訂 新編 化学 (東京書籍))
使用教材 : (ニューステップアップ化学(東京書籍)、サイエンスビュー化学総合資料(実教出版))

	指導内容 【年間授業計画】	化学の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	配当 時数
4月	2編：化学反応とエネルギー 1章：化学反応と熱・光 1節. 反応熱と熱化学方程式 2節. ヘスの法則 3節. 光とエネルギー	化学反応と熱の出入りについて理解させる。 熱化学方程式の書き方と熱化学方程式の意味を理解させる。 ヘスの法則を理解させる。 化学発光について理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】	12
5月	3編：化学反応の速さと平衡 1章：化学結合の速さ 1節. 反応の速さ 2節. 反応速度を変える条件 3節. 反応のしくみ 2章：化学平衡 1節. 可逆反応と化学平衡 2節. 平衡の移動 3章：水溶液中の化学平衡 1節. 電離平衡 2節. 塩と化学平衡 【1学期中間考査】	反応速度は温度、濃度、触媒、表面積などの反応の条件などにもよっても変化することを理解させる。 反応速度式及びその比例定数である反応速度定数について理解させる。 活性化状態と活性化エネルギーについて理解させる。 化学平衡の状態において、正反応の速度＝逆反応の速度が成り立つことを理解させる。 濃度の変化や圧力の変化によって平衡が変化すること（ルシャトリエの原理）を理解させる。 電離平衡について理解させる。 塩の水溶液の液性と加水分解における電離平衡を説明する。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】 定期考査 【知識・理解】	13
6月	2編：化学反応とエネルギー 2章：電池と電気分解 1節. 電池 2節. 電気分解	電池の原理を酸化還元反応と関連付けて説明できる。 ボルタ電池およびダニエル電池の原理を金属のイオン化傾向と関連付けて説明できる。 マンガン電池及び鉛蓄電池の原理を説明できる。 鉛蓄電池に関する化学反応の量的関係を計算できる。 燃料電池及び実用電池の原理を説明できる。 金属のイオン化傾向を示し、酸化剤と還元剤の反応における電子の授受について理解させる。 電気分解の原理を酸化還元反応と関連付けて説明できる。 電気分解における陰極の還元反応、陽極の酸化反応について理解させる。 イオン交換膜法、電気めっき、電解製錬、熔融塩電解について説明できる。 電気化学に関する観察・実験の基本操作や記録ができる。 電気分解の量的関係を計算できる。 流れた電流の量から生成物の量を計算できる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】	16
7月	1編：物質の状態 1章：物質の状態 1節. 物質の三態 2節. 気体・液体間の状態変化 2章：気体の性質 1節. 気体 2節. 気体の状態方程式 3章：溶液の性質 1節. 溶解 2節. 希薄溶液の性質 3節. コロイド 【1学期期末考査】	物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解させる。 また状態の変化に伴うエネルギーの出入り及び状態間の平衡と温度や圧力の関係について理解させる。 ボイル・シャルルの法則を理解させる。 気体の状態方程式が導出でき、計算問題を解くことができる。 溶液の仕組みを理解させる。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解させる。 沸点上昇度が、溶液の種類に無関係で、溶液の質量モル濃度に比例していることを理解させる。 コロイド、コロイド粒子、コロイド溶液について理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】 定期考査 【知識・理解】	5

	1 節. 反応熱と熱化学方程式 2 節. ヘスの法則	熱化学方程式の書き方と熱化学方程式の意味を理解させる。 ヘスの法則を理解させる。 化学式や化学反応式について理解させる。	発問に対する発言 【思考・判断・表現】	
8 月		【夏季休業】		
9 月	1 編：物質の状態 4 章：化学結合と固体の構造 1 節. 結晶の種類と性質 2 節. 金属結晶の構造 3 節. イオン結晶の構造 4 節. 分子結晶の構造 5 節. 共有結合の結晶と非晶質 5 編：有機化合物 1 章：有機化合物の特徴と構造 1 節. 有機化合物の特徴 2 章：炭化水素 1 節. 飽和炭化水素 2 節. 不飽和炭化水素 3 節. 有機化合物の分析	イオン結晶、分子結晶、共有結晶、金属結晶について理解させる。対心立方格子、面心立方格子、六方最密構造について理解させる。 有機化合物の定義と特徴を説明できる。 有機化合物の化学式を実験結果から求められる。 有機化合物に関する観察・実験の基本操作や記録ができる。 有機化合物と無機化合物を比較し、構成元素の種類は少ないにもかかわらず、化合物の種類はきわめて多いことを示す。 命名法に基づき炭化水素を命名できる。 脂肪族炭化水素の物理的・化学的性質を構造式と関連付けて説明できる。 炭化水素の構造異性体を区別できる。 有機化合物に関する観察・実験の基本操作や記録ができる。 アルカン、アルケン、アルキンの代表的なものを示し構造を理解させる。 成分元素の検出方法について理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】	10
10 月	3 章：アルコールと関連化合物 1 節. アルコールとエーテル 2 節. アルデヒドとケトン 3 節. カルボン酸とエステル 4 節. 油脂とセッケン 4 章：芳香族化合物 1 節. 芳香族炭化水素 2 節. 酸素を含む芳香族化合物 3 節. 窒素を含む芳香族化合物 【2学期中間考査】	酸素を含む脂肪族化合物を命名法に基づいて命名できる。 アルコール、エーテル、アルデヒド、カルボン酸の反応性を構造と関連付けて説明できる。 銀鏡反応やヨードホルム反応から構造式を推測できる。 光学異性体について説明できる。 油脂、セッケン、界面活性剤の性質を説明できる。 けん化価とヨウ素価を計算により求められる。 アルコールの構造とエーテルの構造について理解させる。 カルボニル基、アルデヒド基について理解させ、ケトンの性質を示す。 カルボン酸の一般式を理解させる。 油脂の構成について理解させる。 ベンゼン環を含む化合物について命名法に基づき命名できる。 ベンゼンの構造を理解し、反応性を説明できる。 フェノール類の反応を構造と関連付けて説明できる。 塩化鉄(Ⅲ)による呈色反応により構造式を推定できる。 フェノールの製法について説明できる。 芳香族カルボン酸の反応性および医薬品としての利用について説明できる。 アニリンの製法および性質について説明できる。 ジアゾカップリングについて説明できる。 アゾ化合物の利用について説明できる。 芳香族アミンの構造と性質を理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】 定期考査 【知識・理解】	15
11 月	6 編：高分子化合物 1 章：天然高分子化合物 1 節. 天然高分子化合物 2 節. 単糖類・二糖類 3 節. 多糖類 4 節. アミノ酸 5 節. タンパク質 6 節. 核酸 2 章：合成高分子化合物 1 節. 合成高分子化合物 2 節. 合成繊維 3 節. プラスチック（合成樹脂） 4 節. ゴム 3 章：高分子化合物と人間生活 1 節. 機能性高分子 2 節. プラスチックの廃棄処理	高分子化合物の種類について理解させる。 糖類の一般式を理解させる。 糖類の種類を理解させる。 アミノ酸の一般式を理解させる。 タンパク質はアミノ酸が多数結合してできていることを理解させる。 核酸について理解させる。 ポリエチレンテレフタラートの縮合について理解させる。 ナイロンの合成反応について理解させる。 熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、イオン交換樹脂について理解させる。 生ゴムの構造を理解させる。 高吸水性高分子、生分解性高分子、導電性高分子、感光性高分子について理解させる。 プラスチックのリサイクルについて触れ理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】	14
12 月	5 編：有機化合物 5 章：有機化合物と人間生活 1 節. 染料・医薬品 2 節. 合成洗剤 3 節. 食品 【2学期期末考査】	有機化合物の染料、医薬品としての利用について説明できる。 合成洗剤とセッケンの違いについて理解し、説明できる。 糖類、タンパク質などについて理解を深める。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】 定期考査 【知識・理解】	9

	1 節. 反応熱と熱化学方程式 2 節. ヘスの法則	熱化学方程式の書き方と熱化学方程式の意味を理解させる。 ヘスの法則を理解させる。 化学反応について理解させる。	発問に対する発言 【思考・判断・表現】	
1 月	4 編: 無機物質 1 章: 周期表と元素 1 節. 周期表と元素 2 章: 非金属元素の単体と化合物 1 節. 水素と希ガス 2 節. ハロゲンとその化合物 3 節. 酸素・硫黄とその化合物 4 節. 窒素・リンとその化合物 5 節. 炭素・ケイ素とその化合物 3 章: 典型金属元素の単体と化合物 1 節. アルカリ金属とその化合物 2 節. 2 族元素とその化合物 3 節. 1, 2 族以外の典型金属元素とその化合物 4 章: 遷移元素の単体と化合物 1 節. 遷移元素とその化合物 2 節. 金属イオンの分離・確認 5 章: 無機物質と人間生活 1 節. 金属の利用 2 節. 合金 3 節. セラミックス	水素の性質について理解させる。希ガスは安定しており、化合物を作らず、単原子として存在していることを理解させる。 ハロゲンはとても反応しやすく原子番号順に酸化力が小さいことを理解させる。 酸素の性質と化合物について理解させる。 窒素、リンの性質について理解させる。 炭素・ケイ素の単体と化合物について理解させる。アルカリ金属の単体の性質、単体の保存法について理解させる。 1 族元素の性質とその化合物及び工業製法（アンモニアソーダ法）について理解させる。 2 族元素の性質とその化合物及び生活で利用されているものを理解させる。 アルミニウム、亜鉛、スズが両性元素であることを理解させる。 遷移元素の例として銅、銀、鉄、クロム、マンガンをだし理解させる。 金属イオンの検出反応を確認し、金属イオンの分離を理解させる。 金属の特性、主な金属の性質を理解させる。 代表的な合金を確認し理解させる。 セラミックスの意味を理解させる。	授業態度 【関心・意欲・態度】 発問に対する発言 【思考・判断・表現】 小テスト 【知識・理解】	8
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：保健体育，科目：体育 年間授業計画

教科：保健体育 科目：体育 単位数：3単位
対象学年組：第3学年A組・B組
教科担当者：天野、中田
使用教科書：最新高等保健体育 改訂版（大修館）
使用教材：各運動用具

	指導内容	科目：体育の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	ガイダンス	体育の目的・意義について理解させる。	観察	1
	体づくり運動 (スポーツテスト)	スポーツテストを通じて自らの課題等を見つけ今後の体育、運動習慣にいかせるようにする。	観察、測定記録	3
	球技(バスケットボール)	ゴール型球技の特性を理解し、ドリブル、パス、シュートなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	2
	球技(テニス)	ネット型球技の特性を理解し、ラリーや攻防を楽しませる。また生涯スポーツとしての楽しみも理解させる。	観察、実技テスト	2
	球技(アルティメット)	ゴール型球技の特性を理解し、パス、キャッチなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	2
5月	球技(バスケットボール)	ゴール型球技の特性を理解し、ドリブル、パス、シュートなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	3
	球技(テニス)	ネット型球技の特性を理解し、ラリーや攻防を楽しませる。また生涯スポーツとしての楽しみも理解させる。	観察、実技テスト	3
	球技(アルティメット)	ゴール型球技の特性を理解し、パス、キャッチなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	6
6月	球技(バスケットボール)	ゴール型球技の特性を理解し、ドリブル、パス、シュートなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	2
	球技(テニス)	ネット型球技の特性を理解し、ラリーや攻防を楽しませる。また生涯スポーツとしての楽しみも理解させる。	観察、実技テスト	3
	球技(アルティメット)	ゴール型球技の特性を理解し、パス、キャッチなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	4
	水泳	水泳の技能を習得するとともに、生涯を通じて水に親しめる資質を身につけさせる。また、水の安全についての理解も十分に理解させる。	観察、測定タイム	2

	指導内容	科目：体育の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	水泳	水泳の技能を習得するとともに、生涯を通じて水に親しめる資質を身につけさせる。また、水の安全についての理解も十分に理解させる。	観察、測定タイム	4
	球技（アルティメット）	ゴール型球技の特性を理解し、パス、キャッチなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	2
8月	水泳	水泳の技能を習得するとともに、生涯を通じて水に親しめる資質を身につけさせる。また、水の安全についての理解も十分に理解させる。	観察、測定タイム	1
	球技（アルティメット）	ゴール型球技の特性を理解し、パス、キャッチなどの技能を身につけ仲間と協力し、安全に留意してゲームでの攻防を楽しませる。	観察、実技テスト	1
9月	水泳	水泳の技能を習得するとともに、生涯を通じて水に親しめる資質を身につけさせる。また、水の安全についての理解も十分に理解させる。	観察、測定タイム	4
	体育理論	体力を高める方法を理解させる。	観察、レポート	1
10月	球技選択	リーダーを中心に、グループで、選択した球技の練習やゲームを行い、自主性や協調性を育む。	観察、レポート	12

	指導内容	科目：体育の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
11月	球技選択	リーダーを中心に、グループで、選択した球技の練習やゲームを行い、自主性や協調性を育む。	観察、レポート	12
12月	球技選択	リーダーを中心に、グループで、選択した球技の練習やゲームを行い、自主性や協調性を育む。	観察、レポート	5
	体育理論	体力を高める方法を理解させる。	観察、レポート	1
1月	球技選択	リーダーを中心に、グループで、選択した球技の練習やゲームを行い、自主性や協調性を育む。	観察、レポート	5
	体育理論	体力を高める方法を理解させる。	観察、レポート	1
2月				
3月				

東京都立大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：「英語」 科目：「総合英語」 年間授業計画

教科：英語 科目：総合英語 単位数：3単位
対象学年組：第3学年B組
教科担当者：（国際系：河澄 さつき 横戸 圭）
使用教科書：（New ONE WORLD Communication II （教育出版））
使用教材：（自主教材）

	指導内容	科目「総合英語」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
4月	Another World under the Sea	・日頃目にすることの無い海中の不思議について知る。 ・海の自然を守る大切さや、自分にとっての海にまつわるテーマについて英語でまとめ、意見を交換したりする。	ワークシート	13
5月	動詞の語法（1） Writing	・目的語として、動名詞・不定詞を後に取る動詞 ・使役動詞、知覚動詞等 ・身近なテーマについて比較して書く	ワークシート 中間考査	14
6月	The Secret Annexe 動詞の語法（2）	・アンネの日記を通して弱者の苦しみを理解し、平和について考える。 ・ほぼ同年代のアンネが、この時代にどう生きていたのか、話し合ったり、意見交換をしたりする。 ・第2文型をとる動詞、第3文型をとる動詞、自動詞と他動詞他	ワークシート	16
7月	動詞の語法（3） Writing	・いろいろな動詞の語法 ・身近なテーマについて分析して書く	ワークシート 期末考査 授業内発表活動	3
9月	Tuna 名詞の語法	・グローバルな食材となったマグロを食糧資源として理解し、さらに養殖の難しさを理解する。 ・友だちと興味・関心のある事柄について話し合ったり、聞いた内容を発表したりする。 ・不可算名詞の用法、慣用的に複数形を用いる表現等	ワークシート	12
10月	代名詞の語法 Writing	・one/itの用法、形式主語・目的語、所有代名詞の用法等 ・日常生活に関する記事を読み、まとめる。	ワークシート 中間考査	17

	指導内容	科目「総合英語」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
11 月	Water Crisis 形容詞の語法	・地球規模の水不足を認識しながら、どう対処していくべきか理解する。 ・水の使い方をテーマにして、友だちと積極的にコミュニケーションを図る。 ・数・量を表す形容詞の用法、分詞形容詞等	ワークシート	18
12 月	副詞の語法 Writing	・場所・時・条件を表す副詞の用法等 ・調査・研究に関する記事を読み、まとめる。	ワークシート 期末考査	10
1 月	Express yourself	・既習事項を踏まえ、学習した内容や今後理解を広げていきたい内容につき調べ、発表する。 ・友だちの発表を聞き、自分のそれに組み込むことのできる点を考察する。	ワークシート	9

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：水産、科目：海洋環境 年間授業計画

教科：水産 科目：海洋環境 単位数：2単位
対象学年組：第3学年B組
教科担当者：片桐 康佑
使用教科書：海洋環境（文部科学省）
使用教材：なし

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第1章 海洋環境管理 第2節 海洋環境の保全 第2 地球環境の変化 1 気候変動と環境問題 2 地球温暖化	大気中の二酸化炭素の増加など地球環境の変化と海洋環境との関わりの基礎的な内容を理解する。 I P C Cの報告書を基に情報の適切な評価する力を身に付ける。 情報を整理し、地球温暖化の抑制について世界が取り組むべきことについて考え、自らの意見を持つ。	課題提出 【関心・意欲・態度】	6
5月	第1章 海洋環境管理 第2節 海洋環境の保全 第2 地球環境の変化 3 エルニーニョ現象 4 オゾン層の破壊 5 大気汚染 6 酸性雨 7 森林破壊 8 砂漠化 9 化学物質による汚染	海洋観測と地球環境とのかかわりを理解し、エルニーニョ現象の基本的な事項を理解する。 オゾン層の破壊や大気汚染などの諸問題について原因と結果、今後の取り組みについて理解する。 人間活動によって排出された化学物質による汚染について原因と結果、今後の取り組みについて理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】	6
6月	第1章 海洋環境管理 第2節 海洋環境の保全 第2 地球環境の変化 10 生物の多様性 第3 海洋汚染の現状 1 定義 2 種類 3 汚染原因 4 放射能による汚染	環境や生物に影響を及ぼす排水の基礎的な内容を理解する。 環境や生物に影響を及ぼす油汚染の基礎的な内容を理解する。 環境や生物に影響を及ぼす海洋ごみの基礎的な内容を理解する。 環境や生物に影響を及ぼす栄養塩類の増減の基礎的な内容を理解する。 環境や生物に影響を及ぼす放射能による汚染の基礎的な内容を理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】	10
7月	まとめ	定期考査	定期考査 ・考査問題を正確に解くことができるか【技能】 ・答案の内容は必要なことを記述しているか【知識・理解】	1

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	第1章 海洋環境管理 第3節 陸水環境の保全 第1 陸水における環境要因 1 河川 2 湖沼 第2 陸水環境の保全 1 水の循環 2 汚染の現状 3 河川の環境保全 4 湖沼の環境保全 5 上下水道施設	陸水の環境に影響を及ぼす人間活動に由来する排水などの要因の基礎的な事項について理解する。 地下水・陸水等が海洋の環境や生物に及ぼす影響について理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】	4
10月	第1章 海洋環境管理 第4節 海洋環境等法規 第1 国際条約 1 国連海洋法条約 2 環境に関する主な条約等	海洋環境に関する国際条約の目的について基礎的な内容を理解する。 海洋環境に関する国際条約の概要について基礎的な内容を理解する。 国連海洋法条約について基礎的な内容を理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】 定期考査 ・考査問題を正確に解くことができるか【技能】 ・答案の内容は必要なことを記述しているか【知識・理解】	6
11月	第1章 海洋環境管理 第4節 海洋環境等法規 第2 我が国の環境に関する主な法律 1 環境基本法 2 環境影響評価法 3 海洋汚染防止条約 4 水質汚濁防止法 5 海岸法 6 河川法 7 自然再生推進法 8 海洋基本法 9 その他	海洋環境に関する法規の目的について基礎的な内容を理解する。 海洋環境に関する法規の概要について基礎的な内容を理解する。 海洋環境に関する各法規の基礎的な内容を理解する。 環境アセスメントの意義や役割について基礎的な内容を理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】	8
12月	第2章 水産・海洋関連産業と環境保全 第1節 漁業・船舶と環境保全 第1 廃棄漁具とゴーストフィッシング 第2 船舶運航と環境保全 1 船舶の排気ガス 2 船舶のバラスト水と船体付着生物 第4章 海洋工事と環境保全 第1節 漁場造成技術 第1 人工漁場の造成技術 第2 増養殖場の計画と設計 第3 環境修復技術	水産業や海洋関連産業と環境保全について理解する。 廃棄漁具によるゴーストフィッシング、混獲、船舶運航による排出ガス、バラスト水、船底付着生物、省力化船など、漁業や船舶運航が生態系に与える影響と環境保全に向けての対策などについて理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】 定期考査 ・考査問題を正確に解くことができるか【技能】 ・答案の内容は必要なことを記述しているか【知識・理解】	7

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	第4章 海洋工事と環境保全 第2節 ウォーターフロント開発	沿岸・海洋域の多面的利用及び環境整備を目的とした開発に関する事例を理解する。	課題提出 【関心・意欲・態度】	4
	第1 沿岸域の環境保全			
	第2 海洋工事に必要な調査	事例を通して、沿岸域における環境の調査及び保全技術並びに海岸環境の保全と整備などについて、基礎的な知識と技術を理解する。		
	第3 海岸環境の保全と整備			
	第4 ウォーターフロント開発の技術			
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：水産、科目：海洋生物 年間授業計画

教科：水産 科目：海洋生物 単位数：2単位
対象学年組：第3学年B組選択
教科担当者：磯貝 大介
使用教科書：海洋生物
使用教材：海洋生物

	指導内容	科目「海洋政策」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第1章 水圏の環境と生態系 第1節 水圏の環境 第2節 生態系 第3節 生物の種類と分類	 ・二名法や国際命名規約を理解させ、実際の海洋生物の例を紹介する。 ・海洋生物の類縁関係についてまとめた「系統樹」を理解し、そのグループの特徴を学ぶ。 	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	6
5月	第2章 海洋生物 第1節 海洋生物の生活 第2章 無脊椎動物	 ・海洋動物の海洋生活に適応した体の特徴を紹介する。 ・動物毎の好適範囲について、実際の動物の例を挙げながらその違いについて説明する。 ・海綿動物、刺胞動物、軟体動物について実際の動物を示しながらその体の特徴について理解させる。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	6
6月	第2章 海洋生物 第2節 無脊椎動物 第3節 脊椎動物	 ・環形動物、節足動物について、実際の動物を示すことでその動物の体の特徴を理解させる。 ・棘皮動物、脊索動物について、実際の動物を示すことでその動物の体の特徴を理解させる。 ・魚類の代表例について、漁獲されている例を生徒に聞き取りながら日常的なじみの深い名称を紹介する。 ・市場等には流通しない深海魚や外来魚について紹介することで生物の多様性を理解させる。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	8
7月	第2章 海洋生物 第3節 脊椎動物	 ・海洋に生息している爬虫類、哺乳類について紹介し、それらの抱える問題（絶滅危機、漁業との摩擦）について生徒に考えさせる。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	2
8月				
9月	第3章 海洋植物 第1節 海洋植物の生活 第2節 生殖と世代交代 第3節 主な海洋植物	 ・海洋植物の生活について、光合成や栄養分の吸収に着目して紹介する。 ・海洋植物の生殖細胞を理解させ、生殖と世代交代が種によって大きく変化することを例を挙げることで理解を深めさせる。 ・水産上重要な海洋植物を、発達した分類群ごとに紹介する。また、各グループの特徴について実物を見せながら紹介する。 	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	4
10月	第4章 プランクトン 第1節 プランクトンの種類 第2節 植物プランクトン 第3節 動物プランクトン	 ・プランクトンの定義と大まかなグループについて理解させる。 ・植物プランクトンを細かく分類群ごとに紹介し、各グループの特徴について紹介する。 ・増殖業と深い関わりのある種類について紹介し、各種類の培養方法と人への貢献度を理解させる。 ・この生物が引き起こす海洋問題（赤潮）について理解させ、その発生メカニズムについて学ぶ。 ・代表的な動物プランクトンについて紹介する。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	6

	指導内容	科目「海洋政策」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	第5章 未利用資源 第1節 水産資源消費量の推移 第2節 未利用資源の活用 第6章 水産資源管理 第1節 水産資源の特徴 第2節 水産資源量の推定 第3節 水産資源管理の方法	・増殖業と深い関わりのある種類について紹介し、各種類の培養方法と人への貢献度を理解させる。 ・市場における未利用資源や深海生物の利用促進計画など将来性のある話題について紹介する。 ・水産資源の推定法について、標識放流・目視調査等について理解させる。 ・乱獲を防ぐために実際に実施されている生残曲線、YPRモデルを理解させる。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	6
12 月	第6章 実験 第1節 「水圏の環境と生態系」の実験 第2節 「海洋動物」の実験	・海洋における生態系について、沿岸、深海等の海域による構成要素の違いについて理解させる。 ・食物連鎖、食物網、栄養段階について図を用いながら理解させる。	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	2
1 月	第6章 実験 第3節 「海洋植物」の実験 第4節 「プランクトン」の実験	・海藻類の標本作成 ・プランクトンの大きさ、数を実測する	授業への取組（ノートの記入、課題提出と内容）、実験への取組、考查点を総合的に評価する	4
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 水産 科目 船舶運用 年間授業計画

教科：水産 科目：船舶運用 単位数：2単位

対象学年組：第3学年B組

教科担当者：(B組：木村 司)

使用教科書：(船舶運用 (海文堂出版))

使用教材：(自作プリント、自作プレゼンテーションスライド)

	指導内容	科目船舶運用の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	【Web授業】 船舶の概要 船舶の意義 漁船の意義	船舶の役割 船舶の種類 代表的な船舶 漁船の沿革 漁船の定義 漁業の促進制限 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	5
5月	船舶の概要 船舶の種類と船体構造 操船の基本	船質による分類 推進方法による分類 船体各部の名称 各部の名称と構造 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。 舵の作用 スクリュウプロペラの作用 舵とスクリュウプロペラの総合作用 操舵心得・速力・惰力・旋回圏 船体の安定とトリム について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	6
6月	船舶の概要 船舶の種類と船体構造 操船・機関・通信	船体の強さ 主要寸法 舵 操舵装置 船内通信連絡設備 無線設備 GMDSS関連の設備 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	6
7月	船舶の設備 係船・荷役設備	錨 錨鎖 ウィンドラスと付属具 その他の係船設備 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	2

	指導内容	科目船舶運用の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	船舶の設備 安全・衛生設備	救命筏 その他の救命器具 救命信号 消防設備 について理解を深め、船舶緊急時に対応できる力を付けさせる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	6
10月	海上気象 海上気象の基礎	大気組成と構造 気象要素 海象観測 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付けさせる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	8
11月	海上気象 気団と前線	気団の種類と特徴 前線の種類と特徴 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付けさせる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	7
12月	海上気象 高気圧と低気圧 日本近海の気圧配置と気象	高気圧の種類と特徴 低気圧の一般的性質 等圧線の型 気圧配置の型式（天気図型）と特徴 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付けさせる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	5

	指導内容	科目船舶運用の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	海上気象 天気図の見方	天気図の記号 天気図による天気の予測 船舶への気象情報 について理解を深め、海技試験（運用）に対応する力を付させる。	海技士の資格取得に関心を持ち、意欲的且つ安全を考えながら学習に参加する態度を評価する。【関心・意欲・態度】 発問に対し、その回答を考え、他人の意見に耳を傾ける姿勢を評価する。【思考・判断・表現】 授業中の質問・態度・各種演習・定期考査などの取り組みやその結果によって評価する。【知識・理解】	2
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：水産、科目：ダイビング 年間授業計画

教科：水産 科目：ダイビング 単位数：2単位
対象学年組：第3学年B組 選択
教科担当者：今西 弘憲
使用教科書：潜水士テキスト
使用教材：なし

	指導内容	科目「ダイビング」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第1編 潜水業務 第1章 潜水業務の内容 1-1 潜水業務の定義 1-2 潜水業務の歴史 1-3 潜水業務の現状 第2章 潜水の物理学 2-1 圧力 2-2 気体の法則 2-3 気体の特性	法令による潜水業務など、潜水業務の範囲について理解する。 素潜り、潜水ベル、潜用水圧ポンプの開発、ヘルメット式潜水、スクーバ潜水の歴史について理解させる。 潜水業務の種類・内容及び潜水業務に必要な技能及び作業資格等を具体的に学習する。 圧力や温度がダイビングに影響する物理的法則の基礎的な内容を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	6
5月	第1編 潜水業務 第2章 潜水の物理学 2-4 浮力 2-5 潜水に関係する気体の性質 2-6 水中での光の伝播 2-7 水中での音の伝播 2-8 水中での熱の伝播	吹き上げ、潜水墜落の原因になる浮力調整・呼吸ガスとして使用される各種ガスの特性について理解させる。 水中での光の屈折、色、音、熱など水中環境と陸上環境の違いを理解させる。 潜水業務に用いられる呼吸ガスによる潜水の分類及び各々の特徴を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	6
6月	第1編 潜水業務 第3章 潜水の種類 第4章 スクーバ潜水 第5章 全面マスク式潜水 第6章 ヘルメット式潜水	業務や目的・内容、潜水深度などに応じて呼吸ガス、器材、減圧方式が異なる潜水業務が行われていることを理解させる。 機動性に優れたスクーバ式に必要な必要な設備、器具に扱いと点検・整備の方法等を理解させる。 全面マスク式に必要な設備、器具に扱いと点検・整備の方法等を理解させる。 ヘルメット式潜水に必要な設備、器具に扱いと点検・整備の方法等を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による 「知識・理解」 定期考査	7
7月	第1編 潜水業務 第7章 混合ガス潜水方式 第8章 飽和潜水 第9章 潜水業務の計画と管理	期末考査 40mを越える深度での潜水に要な設備、器具を理解させる。 潜水作業者の健康と安全を確保・実現するために必要な作業計画及び安全管理の概要を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による 「知識・理解」 定期考査	3

	指導内容	科目「ダイビング」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	第1編 潜水業務 第10章 潜水業務の危険性および 事故発生時の措置	浮力、水圧、圧縮空気、送気、潮流や潜水域による危険性を理解させるとともに、代表的な潜水事故と予防法について理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による	6
	第2編 送気、潜降および浮上 第1章 潜水業務に必要な給気 及び送気	自給気式と他給気式の送気法について理解させる。	「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による	
	第2章 潜降および浮上	各種潜水方式における潜降法の基本的な内容を理解させる。	「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	
10月	第2編 送気、潜降および浮上 第3章 適正な浮上速度の制定	減圧理論で用いられる用語をはじめ、基礎的内容を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による	6
	第3編 高気圧障害 第1章 人のからだ 第2章 潜水による障害とその対策	潜水の影響を直接受ける人体の呼吸器系、循環器系、神経系などについてその構造・機能を理解させる。	「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による	
		潜水による障害の種類や影響について理解させる。また予防方法について基本的な内容を理解させる。	「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	
			「知識・理解」 定期考査	
11月	第3編 高気圧障害 第2章 潜水による障害とその対策 第3章 潜水者の健康管理 第4章 潜水業務に必要な救急処置	呼吸ガスに関係する疾患について、その予防法も合わせて、理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による	8
		危険な海洋生物の種類とこれらの生物に対する対処及び措置の方法について理解させる。	「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による	
		潜水者の健康管理のための法令等について理解させる。	「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	
		心肺蘇生法とAEDの使用について救急処置の手順を理解させるとともに、再圧治療の概要について理解させる。		
12月	第4編 関係法令 第1章 高気圧作業安全衛生規則 第2章 労働安全衛生法	安全な潜水活動を実施するために必要な規定等を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による	4
		労働安全法の目的、潜水器・再圧室構造規格、就業制限、作業時間、健康診断など安全な潜水業務にかかわる法律について理解させる。	「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による	
			「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	
			「知識・理解」 定期考査	

	指導内容	科目「ダイビング」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1月	第4編 関係法令	漁業法、都道府県漁業調整規則などに関連する水産資源保護等の目的や規定を理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシートの作成やレポートの提出による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	4
		潜水士試験に向けて問題演習		
2月				
3月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：水産、科目：資源増殖 年間授業計画

教科：水産 科目：資源増殖 単位数：4単位
対象学年組：第3学年 B組）
教科担当者：北原あゆみ、小原 隆哉
使用教科書：資源増殖（文部科学省）
使用教材：

	指導内容	科目「資源増殖」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第1章 資源増殖の概要 第1節 増養殖技術の変遷 第1 増養殖技術の意義と沿革 第2 資源増殖の方法 第3 増養殖の現状と展望 第2章 飼料・餌料 第1節 養魚飼料の現状と特徴 第1 養魚飼料の現状 第2 養魚飼料の特徴			
		我が国における漁獲量のピーク以降、漁獲量が減少傾向にある理由について理解する。漁獲量の減少をふまえ、資源増養殖の発展に至った経緯について理解する。		3
		増養殖の方法について、①種苗の放流・移植 ②漁場造成 ③漁業管理 の3つの手法があることを理解する。		4
		養殖で用いられる飼料・餌料について、その種類と変遷について理解する。		2
5月	第1章 資源増殖の概要 第2節 増養殖技術 第1 増殖 第2 養殖 第2章 飼料・餌料 第2節 魚介類の摂餌、消化、吸収 第1 魚の摂餌量 第2 飼料効率 第3 消化と吸収 第4 各栄養素の消化吸収率			
		移植と放流の違いと、漁場造成（人工物の設置、環境の整備）、漁場管理について理解する。		3
		飼料における、飽食率と餌料効率、増肉係数について理解する。淡水魚・海水魚の消化器官と各栄養素の消化吸収率について理解する。		4
6月	第1章 資源増殖の概要 第3節 種苗生産 第1 天然種苗 第2 人工種苗 第3 種苗の育成 第2章 飼料・餌料 第3節 魚介類の栄養要求 第4章 生産物の安全管理と環境対策 第1節 水産物の特性と流通の現状 第2節 食品トレーサビリティシステム 第1 食品トレーサビリティ	天然種苗の採苗について理解する。		3
		人工種苗の採卵・ふ化、仔稚魚の育成について理解する。		2
		飼料・餌料における各栄養素の質と量について理解する。		3
		水産物の流通、養殖業におけるハザードとトレーサビリティの重要性について理解する。		4
		水産物の流通、養殖業におけるハザードとトレーサビリティの重要性について理解する。		1
7月	第4章 生産物の安全管理と環境対策 第2 伝達情報の表現様式及び格納媒体 第3節 電子タグを利用した流通システム 第4節 養殖漁場の安全対策 第1 自家汚染 第2 適正収容量 第3 養殖漁場の改善	HACCPやGAPなど、水産物の安全性を保つためのシステムについて理解する。		2
		1学期期末考查		1

	指導内容	科目「資源増殖」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	第2章 飼料・餌料 第4節 初期餌料 第1 初期餌料の条件と種類 第2 餌料生物の培養 第3 餌料生物の栄養価 第5節 飼料原料と配合飼料 第1 飼料原料 第2 配合飼料	養殖業における、初期餌料の条件や餌料の種類について理解する。		3
		ワムシ・アルテミア・ミジンコ類等の培養について、初期餌料の栄養強化の方法について理解する。		4
		飼料の原料について、その特徴と選択について理解する。		2
		配合飼料の形態と特徴、変遷について理解する。		1
10月	第3章 病気と病害対策 第1節 病気の種類と流行 第1 病気の種類 第2 感染発病と流行 第2節 病気の診断と対策 第1 診断 第2 病害対策	魚病の要因（内因性・外因性）と病原の種類について理解する。 ウイルス病・細菌病の種類と特徴について理解する。		4
		真菌病・寄生虫病・その他の病気について理解する。 病気の診断方法と、対策や予防方法について理解する。		4
		病気にかかっている魚類の形態的特徴から魚病について判断する。		4
		2学期中間考査		1
11月	第5章 水産育種とバイオテクノロジー 第1節 育種とは 第2節 水産育種とバイオテクノロジーの歴史 第3節 導入育種 第4節 選抜育種 第8節 遺伝子導入 第9節 マーカー育種 第5節 その他の育種 第6節 性の制御 第1 魚類の性 第2 魚類の人為的性転換	育種の定義とその歴史について理解する。		4
		DNAの構造と突然変異、突然変異を利用した育種について理解する。		3
		人為的な突然変異を利用した育種、選抜育種について理解する。		4
		遺伝子組み換えとゲノム編集の違い、流通が許可されているゲノム編集食品について理解する。		4
		染色体の違いによる魚類の性（XY型・ZW型）と人為的性転換について理解する。		1
12月	第5章 水産育種とバイオテクノロジー 第7節 染色体操作 第1 魚類の授精とDNA量の変化 第2 三倍体 第3 三倍体の産業応用 第4 雄性発生 第12節 育種とバイオテクノロジーの展望	倍数体、魚類の三倍体について理解する。		3
		2学期期末考査		1
		近年のバイオテクノロジーについて、その概要と今後の展望について理解する。		2
		近年のバイオテクノロジーについて、その概要と今後の展望について理解する。		1

	指導内容	科目「資源増殖」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	第7章 経営と流通 第1節 経営 第2節 流通 第6章 主な増養殖技術			
		水産経営について、漁業協同組合とその機能について理解する。		3
		水産業の6次産業化について理解する。		4
		近年の水産増養殖分野における様々な技術について、考察する		1
2 月				
3 月				

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 水産 科目 航海・計器 年間授業計画			
教科：水産 科目：航海・計器 単位数：4単位			
対象学年組：第3学年B組 選択			
教科担当者：（ 橋本 昇 ㊟ ）			
使用教科書：（ 航海・計器（海文堂出版） ）			
使用教材：（ 図説海上衝突予防法、 図説海上交通安全法、 図説港則法 ）		評価の観点・方法	配当 時数
指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標		
4月	○授業ガイダンス ○海難事例の研究 ○避航操船 ○航海概要 ・航海と計算 ○航海に関する情報 ・船位、速力、航程 ・海流と潮流 ・潮汐計算 ○授業ガイダンス（学習内容・評価方法等）で以下の目標を示す 1. 海技従事者として船舶の安全、適切な航海について理解し、関連技術を身に付けるようにする。特に「課題研究（小型実習船における東京湾航海）」「船舶運用」と関連付け、実践的な技術を身に付ける。 2. 1級小型船舶操縦士資格の有資格者として、海上交通の過密化や複雑化を踏まえ、海の交通ルール・航海3法（海上衝突予防法・海上交通安全法・港則法）に規定されている内容を正しく理解し、又、船舶の安全航行と関連付けて考えることができるようにする。又、有資格者としての実践力を身に付ける。 3. 海上交通関係法規を自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に考え、取り組むことができる。 4. 海洋や水産に関心を持ち、特に小型船舶操縦士実技試験において、主体的、意欲的に取り組むことができる。 5. 海難事例や様々なグラフの読み取りや分析、事例の分析等を通して、思考力・判断力・表現力（発信力）を身に付ける。 6. 授業内での様々な活動を通して、社会人基礎力を身につける。 ○避航操船 避航について、認知・予測判断・操作行動の手順に従って、避航動作をとることができる。（様々な船舶の写真を見て判断、避航する。） ○航海の概要を理解し、船位の表し方、速力・潮汐に関する諸計算ができる。	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・資料の分析・考察等ができるか[思考・判断・表現] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	12
5月	○予防法 ・予防法の2大原則（海難事例） ○海上交通関係法規（航海3法） 海上衝突予防法（以下予防法） 海上交通安全法（以下海交法） 港則法 ・各法規 第1総則第1条（目的） ・一般法と特別法 ○海難事例の研究 ○航海に関する情報 ・海図と航路標識 ・潮汐計算 ・潮流計算 ＊中間考査 ○予防法の2大原則を理解する。 ○航海3法の関係を理解する。一般法と特別法の関係を理解する。 ○各法規の第1条「目的」を理解し、航海の安全について考えさせる。 ○海難審判所で審判された実際の海難事例を通し、予防法の「航法」について、敵用される条文を考え、「航法」について理解する。 ・課題についての各自の考えや根拠の発表と予防法条文の内容について、補充・解説し、法規の正しい知識を身に付ける。 ・海上交通の安全について考えることができる。 ・分析力及び考察力、表現力を身に付ける。 ○水路図誌の種類や使用方法を理解し、実際の航海に必要な知識を高める。 小型実習船で活用できる実践力を身につける。 ○潮汐及び潮流計算ができるとともに、課題研究での航海（大島一周航海・下田航海・東京湾航海）で実際に活用する。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。 ○中間考査を解答・解説し、学習状況の確認と定着を図る	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・資料の分析・考察等ができるか[思考・判断・表現] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・定期考査、確認テスト[知識・技能・理解]	9
6月	○予防法「航法」 ・あらゆる視界の状態における船舶の航法 ・互いに視野の内にある船舶の航法 ・視界制限状態における船舶の航法 ○グラフなどの資料分析、考察、まとめの方法 ○電波航法 ・衛星航法システム ○基本航海計器 ・コンパス ・レーダー ・船舶自動識別装置（AIS） ○予防法について ・第4条～第19条について理解し、海上交通の安全について考えることができる。 ○電波航法 衛星航法システム（GPS）の基本構成・原理等を理解する。 ○基本航海計器 コンパス（磁気コンパス・ジャイロコンパス・サテライトコンパス） レーダー・AISの基本構成・原理を理解し、小型実習船で実際に活用できる。 ○資料分析型の課題の調査研究を通し、分析力及び考察力、表現力を身に付ける。 ・個別学習、グループ学習、発表等を行う。 ○潮汐及び潮流計算ができるとともに、課題研究での航海（大島一周航海・下田航海・東京湾航海）で実際に活用する。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・資料の分析・考察等ができるか[思考・判断・表現] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価・相互評価[主体性・協働性・客観性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	14
7月	○予防法「灯火及び形象物」 ＊期末考査 ○予防法「灯火及び形象物」 ・第20条～第22条について理解し、海上交通の安全について考えることができる。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。 ○期末考査を解答・解説し、学習状況の確認と定着を図る	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・定期考査、確認テスト[知識・技能・理解]	3

	指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	○予防法「灯火及び形象物」 ○基本航海計器 ・電子海図情報表示装置（ECDIS）及び電子海図 ○地文航法 ・平面航法 距等圏航法 中分緯度航法 漸長緯度航法	○予防法について ・第23条～第31条について理解し、海上交通の安全について考えることができる。 ○電子海図情報表示装置（ECDIS）及び電子海図の基本構成・原理及び基礎を理解する。 ○地文航法における諸航法を理解し、航海に必要な計算ができる。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体的・協働的] ・確認テスト[知識・技能・理解]	9
10月	○予防法「音響信号及び発行信号」 ○天文航法（太陽による船位の求め方） ○小型船舶操縦士資格実技試験準備 * 中間考査	○予防法について ・第32条～第39条をについて理解し、海上交通の安全について考えることができる。 ○太陽子午線高度緯度法を理解し、航海に必要な計算ができる。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。 ○小型船舶操縦士実技試験に向けた実践力を身に付ける ○中間考査を解答・解説し、学習状況の確認と定着を図る	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体的・協働的] ・定期考査・確認テスト[知識・技能・理解]	13
11月	○港則法「総則」「出入港及び停泊」「航路及び航法」「水路の保全」「灯火」 ○航海計画	○港則法について ・第1条～第30条について理解し、海上交通、特に港内の安全について考えることができる。また、課題研究における小型実習船による東京湾航海に活かすことができる。 ○航海計画の企画立案方法を理解し、課題研究における小型実習船による東京湾航海に活かすことができる。 ○海技試験問題演習を通して、知識の定着を図る。	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	14
12月	○海上交通安全法（以下海交法）及び同法施行規則 「総則」「交通方法」 * 期末考査	○海交法 ・第1条～第21条について理解し、海上交通、特に特定航路の安全について考えることができる。また、課題研究における小型実習船による東京湾航海に活かすことができる。 ○期末考査を解答・解説し、学習状況の確認と定着を図る	・海技資格取得に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度[関心・意欲・態度] ・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・定期考査・確認テスト[知識・技能・理解]	8

	指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	○水産・海洋及び海事その他の時事問題を考える	○ICT機器を活用して、自らが興味関心のある時事問題について、調査研究し、互いに意見交換（発表）を行う。 *班別での協働作業を行い、又は個人研究を発表する。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの課題設定・課題解決方法等を提言できているか[表現]、 ・自己評価・相互評価[主体性・協働性・客観性] ・確認テスト	8
2 月	なし	なし		
3 月	なし	なし		

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科 水産 科目 航海・計器 年間授業計画

教科：水産 科目：航海・計器 単位数：2 単位
対象学年組：第3 学年B組 選択
教科担当者：（ 橋本 昇 ㊞ ）
使用教科書：（ 航海・計器（海文堂） ）
使用教材：（ 図説 海上衝突予防法 ）

	指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	○授業ガイダンス ○海の交通ルール（航海の3つの法規） ○海難事例の研究 ○海上衝突予防法（以下予防法） ・予防法の2大原則（海難事例） ・避航操船	○授業ガイダンス（学習内容・評価方法等）で以下の目標を示す 1. 1級小型船舶操縦士資格の有資格者として、海上交通の過密化や複雑化を踏まえ、海の交通ルール・航海3法（海上衝突予防法・海上交通安全法・港則法）に規定されている内容を正しく理解し、又、船舶の安全航行と関連付けて考えることができるようにする。又、有資格者としての実践力を身に付ける。 2. 海上交通関係法規を自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に考え、取り組むことができる。 3. 海洋や水産に関心を持ち、特に小型船舶操縦士実技や試験において、主体的、意欲的に取り組むことができる。 4. 様々な資料やグラフの読み取りを通して、思考力・判断力・表現力（発信力）を身に付ける。 5. 授業内での様々な活動を通して、社会人基礎力を身に付ける ○予防法について ・2大原則を理解する。 ・避航操船	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・グラフの分析等ができるか[思考・判断・表現] ・航海法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価、相互評価[主体性・協働性・客観性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	6
5 月	○海上交通関係法規（航海3法） 海上衝突予防法（以下予防法） 海上交通安全法（以下海交法） 港則法 ・各法規 第1総則第1条（目的） ○予防法「総則」 ○海難発生数グラフの分析・考察 ○水産に関する資料の分析・考察 ○中間考査	○各法規の目的を理解し、船舶及び旅客・乗組員等の安全を図ることの重要性を理解する。 ○予防法第1章「総則」用語の定義を理解し、活用できる力を身に付ける ○海難審判所で審判された実際の海難事例を通し、予防法の「航海法」について、適用される条文を考え、「航海法」について理解する。 ・課題についての各自の考えや根拠の発表と予防法条文の内容について、補充・解説し、法規の正しい知識を身に付ける。 ・海上交通の安全について考えることができる。 ・分析力及び考察力、表現力を身に付ける。 ○資料等の研究を通して、課題発見力・分析力及び考察力、表現力を身に付ける。 個人研究・グループ研究・発表等を行う。 ○中間考査及び確認テスト等を振り返り、学習状況の確認と定着を図る。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・グラフの分析等ができるか[思考・判断・表現] ・航海法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・定期考査・確認テスト[知識・技能・理解]	6
6 月	○予防法「航海法」 ・あらゆる視界の状態での船舶の航海 ・互いに視野の内にある船舶の航海 ○海難事例の研究 ○様々なグラフの分析・考察	○海難審判所で審判された実際の海難事例を通し、予防法の「航海法」について、適用される条文を考え、「航海法」について理解する。 ・課題についての各自の考えや根拠の発表と予防法条文の内容について、補充・解説し、法律の正しい知識を身に付ける。 ・海上交通の安全について考えることができる。 ○予防法 ・第4条～第18条について理解する。 ○様々なグラフ問題を通し、分析力及び考察力、表現力を身に付ける。 ・個別研究、グループ研究、発表等を行う。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・グラフの分析等ができるか[思考・判断・表現] ・航海法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価、相互評価[主体性・協働性・客観性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	8
7 月	○予防法「航海法」 ・視界制限状態における船舶の航海 ○期末考査	○予防法（新規条項）及び現在までの予防法を復習し、学習の定着を図る。 ・第19条について理解する。 ○期末考査を解答・解説し、学習状況の確認と定着を図る	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・グラフの分析等ができるか[思考・判断・表現] ・航海法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価、相互評価[主体的・協働性・客観性] ・定期考査・確認テスト[知識・技能・理解]	3

	指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
8月				
9月	○予防法 ・視界制限状態における船舶間の航法 ・灯火及び形象物	○予防法 ・第20条～第31条について、理解する。 ・海上交通の安全について考えることができる。 ・灯火形象物理解し、識別能力を高める。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価[主体性・協働性] ・確認テスト[知識・技能・理解]	5
10月	○予防法 ・音響信号及び発光信号 ・第5 補則 ○小型船舶操縦士資格実技試験準備 ○中間考査	○予防法について ・第32条～第37条について、理解する。 ・第38条・第39条について理解する。 をもって、海上交通の安全について考えることができる。 ○小型船舶操縦士実技試験に向けた実践力を身に付ける。 ○中間考査・確認テストを振り返り、学習状況の確認と定着を図る。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践的に活用できるか ・自己評価[主体的・協働性] ・定期考査・確認テスト[知識・技能・理解]	7
11月	○予防法 ・第4 音響信号及び発光信号 ・第5 補則 ○港則法 ・基礎的な条項特に港内での航法 ○海上交通安全法 ・基礎的な条項特に適用海域及び航法 ○小型船舶操縦士資格実技試験準備	○予防法 ・「船員の常務」グッドシーマンシップ等について理解し、海上交通の安全についてより深く考えることができる。 ○港則法について 港内での航法を中心に理解し、小型船舶操縦者としての実践力を身に付ける。 ○海上交通安全法について 適用海域、航路での航法を中心に理解し、小型船舶操縦者としての実践力を身に付ける。 ○小型船舶操縦士実技試験に向けた実践力を身に付ける。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・航法の適用条文の内容について正しく理解しているか[知識・技能・理解]、実践に活用できるか ・自己評価[主体的・協働性] ・確認小テスト[知識・技能・理解]	9
12月	○ 航海計画の立案	○小型船舶による大島一周の航海計画を立案する。含むチャートワーク ICT機器を活用したグループ研究を行い、協働性、計画実行力、情報収集能力、想像力等を身に付ける。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関心・意欲・態度] ・自分なりの解答を表現できているか[主体的な態度] ・自己評価、相互評価[主体性・協働性・客観性]	5

	指導内容	科目 航海・計器の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	○航海計画	○小型船舶による大島一周の航海計画を立案する。含むチャートワーク ICT機器を活用したグループ研究、発表を行い、協働性、計画実行力、情報 収集能力、想像力、表現力等を身につける。	・課題や設問に対する取り組み状況、課題提出状況[関 心・意欲・態度] ・自分なりの課題設定・課題 解決方法等を提言できている か[表現]、 ・自己評価、相互評価[主体 性・協働性・客観性]	4
2 月	なし	なし		
3 月	なし	なし		

大島海洋国際高等学校 令和5年度 教科：水産、科目：マリンスポーツ 年間授業計画

教科：水産 科目：マリンスポーツ 単位数：2単位
対象学年組：第3学年B組 選択
教科担当者：今西 弘憲
使用教科書：
使用教材：

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	ガイダンス 1. 海の活用 2. カヌー（カヤック）	環境の保全と安全確保を重視し、海洋の有効な活用について理解させる。 各種マリンスポーツの概要について理解させる。 漁業者等他に海を利用している人と一緒に活動する上で守らねばならない基本的ルールを理解させる。 カヤックに関する基礎知識及び必要な設備・器具の取扱い及び点検・整備の方法、ウェアリングの重要性等を理解・習得させる。 パドルングの基本、沈脱練習などカヤックに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシート等の作成提出。実技の観察などにより	6
5月	2. カヌー（カヤック） 3. 海と安全	総合練習（フォワードストローク・バックストローク、セルフレスキュー等）を通し、基本的な知識・技術の定着を図る。（海洋実習含む） 総合練習（ドローイング・スweep、ブレイス、ラダーの活用等）を通し、基本的な知識・技術の定着を図る。（海洋実習含む） 総合練習（TXレスキュー等）を通し、基本的な知識・技術の定着を図る。 	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシート等の作成提出。実技の観察などにより 「知識・理解」 実技試験 定期考査	6
6月	4. 安全指導と安全管理	海における安全確保を学習するにあたり、管理水域における安全管理・緊急時の対応に関する基礎知識等について理解させる。 堤防や磯、砂浜等の地域環境及び活動海域の特性について理解させ、事故防止及び安全対策等について理解させる。 水中環境と陸上環境の違いを理解させ、泳ぎの基本について習得させる。 水中環境と陸上環境の違いを理解させ、泳ぎの基本について習得させる。 くらげ浮き・伏し浮・仰向け浮き・立ち泳ぎ・スカーリング等を習得させる。 	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 授業中に配布するワークシート等の作成提出による 「知識・理解」 小テスト 実技試験	6
7月	4. 安全指導と安全管理	泳いで救助する方法・防御姿勢・曳航法などを理解させる。 	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 実技観察による 「知識・理解」 小テスト 実技試験	2

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月				
9月	5. 海における安全確保 6. スノーケリング 7. フィッシング（海釣り）	堤防や磯、砂浜等の地域環境及び活動海域の特性、事故防止及び安全対策等について実海域に行き、ボードレスキューなどの説明を通して理解させる。 ライフジャケットの着用、スキndaイビングとの安全性を体験を通して理解させる。 フィッシングに関する基礎的な知識・技術を習得させると共に、事故予防の為にどのように取り組むことが良いか理解させる。また仕掛け製作の技術を身に付けさせる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 観察による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による 「知識・理解」 実技テスト	6
10月	7. フィッシング（海釣り）	フィッシングに関する基礎的な知識・技術を習得させると共に、事故予防の為にどのように取り組むことが良いか理解させる。また、目標に向かってキャスティングできるだけの技術を身に付けさせる。 フィッシングに関する基礎的な知識・技術を習得させると共に、事故予防の為にどのように取り組むことが良いか理解させる。また、目標に向かってキャスティングできるだけの技術を身に付けさせる。 釣り実習（陸釣り）を通して、釣りに行く前の情報収集及び釣り場での注意事項、納竿後の器材の手入れ保管等について理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 実技観察 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	6
11月	8. ビーチコーミング（自然環境保全）	大島各南部地域にある海岸にてビーチコーミングを行い、海洋環境がマリンスポーツにどのように影響を与えるのかを理解させる。 大島各北部地域にある海岸にてビーチコーミングを行い、海洋環境がマリンスポーツにどのように影響を与えるのかを理解させる。 大島各西部地域にある海岸にてビーチコーミングを行い、海洋環境がマリンスポーツにどのように影響を与えるのかを理解させる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 観察による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	6
12月	8. ビーチコーミング（自然環境保全）	大島各地域での活動を通して、大島の海岸環境についてまとめる。	「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 観察による 「思考・判断」 授業中の質疑応答等による	2

	指導内容	科目「海洋環境」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	8. ビーチコーミング（自然環境保全）		「関心・意欲・態度」 「授業への参加意欲・態度」 などの観察による 「技能・表現」 レポートの作成及び提出による 「知識・理解」 レポート提出による	4
		大島各地域での活動を通して、大島の海岸環境についてまとめる。		
		ビーチコーミングのレポートを作成、提出させる。		
2 月				
3 月				